

学校法人 神戸学院 第2次中期行動計画

2019年度 自己点検・評価（附属中学校・高等学校）について

神戸学院大学附属中学校・高等学校では自己点検・評価について、『第2次中期行動計画（2018－2022）』の年次達成度報告書でもって行っている。

年次達成度報告書は、年2回報告（中間・最終）を行うこと、中期行動計画実行のため『年次目標の設定』を年度はじめに行う事とし、校務運営委員会による検証を行い、その結果をホームページにて公表している。

2019年度自己点検・評価（附属中学校・高等学校）について、下記のとおり報告する。

記

1.総括

総括については、2ページのとおりである。おおむね目標の通りの結果になっている。2020年度も全教職員一丸となって計画の実現に努めている。

2.中期計画（第3層）2019年度達成度評価

中期計画（第3層）における達成度評価については、3ページのとおりである。

総 括

1912年、校祖・森わさは「腹のできた底力のある人間」「真に社会に役立つ人間」を育てることを教育の目標とし、それを創立時の校訓「報恩感謝」「自治勤労」に要約しました。また、己を振り返る指針として「照顧脚下」の精神を強調しました。本校は校祖の理念を継承するとともに、自然の恵みを忘れず、自分を見つめ、たゆまず学び、積極的に行動し社会とともに生きる人間の育成をめざします。

その教えの実現のため、創立100周年を契機に2013年から5年間の『第1次中期行動計画(2013-2017)』に基づき、2016年4月にポートアイランド全面移転、翌年4月に同キャンパスに中学校を開設するなど、目覚ましい発展を遂げ、中高一貫、中高大連携教育を実現しました。2017年度には2018年度からの新たな5年間の計画として『第2次中期行動計画2018-2022』を策定し、2年目の2019年度は第1次中期行動計画の成果を踏まえ、新たな計画を進めていきます。

この度は2019年度の年次達成度報告書を取りまとめましたので次のとおりご報告いたします。

建学の精神に基づき知・徳・体の調和にとれた主体的に生きる力を備え、社会に貢献できる人材の育成することを基本方針として、中期目標の実現を図り、兵庫・神戸を代表する学校になることを目指します。

神戸学院大学附属中学校・高等学校 第2次中期行動計画（第3層）2019年度達成評価表

		評価	理由
中期目標	中高大連携教育を推進し、社会の変化に対応した教育活動を展開することで、教育力の向上を図ります。		
中期計画	1	新教育課程(4コース)並びに新しい高大接続に沿ったカリキュラムの実践	<p>B</p> <p>融合型の教育が必要になるため、コース再編の必要性も含めたカリキュラムの議論を進めていることについては評価できる。また、生徒の進路希望の実現のため、進学補習の実施、自習室の解放等を行うなど、大学の入学試験に向けた準備を早期から行っている。</p> <p>新指導要領及びSSH取得を見据えたカリキュラムの検討は生徒の進路だけでなく、今後の学校全体の方向性を決めるためにも、積極的かつ十分な議論の上、取り組んでいる。</p>
	2	建学の精神に沿った情操教育の推進	<p>B</p> <p>年次進行で各学年計画を実施し、成果を積み上げていること。特に中高一貫コースの一連の育成プログラムは順調に実施している。</p> <p>生徒の自主的な活動に関して、一部の生徒には成果が見られるが全体への浸透が待たれる状況でより一層の指導が求められる。また、地域との関わりについては、吹奏楽部等のイベントの参加、地域との合同の清掃活動や学院祭での地域の企業や団体との共同企画などさらに積極的に参加、活動することが望まれる。</p>
	3	教育環境の整備充実	<p>C</p> <p>学校施設の整備については、クラブハウス検討委員会を立ち上げ、教職員の意見を聴取しながら、クラブハウス(校舎及びグラウンド)の計画と施工を行い、10月に体育館の空調設備設置とともに完成した。グラウンドの未整備箇所については、今後の検討課題である。災害対策等マニュアル化及び避難訓練の実施等はさらに積極的に取り組むことが期待される。生徒への奨学金・支援金については、広報をはじめ順調に進められている。</p>
	4	多方面にわたる中高大連携の推進	<p>B</p> <p>本校の教育の柱でもある中高大連携教育については、連携会議、連絡調整会議を中心に授業展開・連携行事・進路に関しては絶えず議論が進められている。中高大連携授業は着実に実施できた。課外活動の連携でも課外活動の連携会議を行い、施設の共同利用、学生生徒の交流、合同応援等に取り組んだ。大学の早期の単位取得等では踏み込んだ意見交換ができていないので議論を進めることを期待する。中大連携では自習時間等の監督等として大学生をチューターとして招き、実施している。</p>

神戸学院大学附属中学校・高等学校 第2次中期行動計画（第3層）2019年度達成評価表

中期目標		中高大連携教育を推進し、社会の変化に対応した教育活動を展開することで、教育力の向上を図ります。		評価	理由
中期計画	5	国際理解教育の活性化		B	国際的な視野の理解を目指し、イギリスへの修学旅行、ニュージーランドへの語学留学、フィリピンセブ島の語学研修、カンボジアのスタディツアー等を計画し、実行している。さらに、ドイツからの留学生やインドネシアからの短期留学生の受け入れを積極的に行っていることは評価できる。グローバルコースの留学プログラムの一環として、オックスブリッジ・キャンプの実施や長期交換留学《トビタテ留学1名採用》等も積極的に利用している。総合学習としては、中国語、韓国語のテーマを設定し実習している。検定試験（英検等）へ積極的に受験を促し、英検2級、準2級合格者を多数出していることは評価できる。今後中高一貫コースでの新しいプログラムの実施が検討され成果が期待される。
	6	ICT教育環境の充実および教育の情報化推進		B	授業を含む教育活動でiPadを使ったICT教育の推進に力を入れ、授業や生徒への連絡、保護者への連絡に使用し評価できる。プロジェクターについては、移動式を使用しているが、教室設置が今後の課題となる。デジタル教科書・教材は新指導要領への移行段階であり、現在導入を検討している状況である。 中高一貫コースについては、ノートパソコンも視野に入れて検討している。動画教材として、スタディサプリを導入し、基礎学力の定着を目指している。今後、他校等の成功事例を基に教員研修が必要となる。
	7	課外活動の振興		C	課外活動の活性化は議論されているが、指導者の問題、強化クラブの問題、入試制度の問題等を積極的に議論し動き出そうとしている姿勢が伺える。その中で強化クラブとして硬式野球部・男子バレーボール部を設定したことは評価できる。今後は両クラブの実績が向上するとともに他部への相乗効果が望まれる。大学との関係は今後もさらに連携を強化する必要がある。
	8	広報活動の充実		A	中学・塾への積極的な広報活動が生徒獲得につながり、評価ができる。オープンハイスクールでは在校生が「学院ナビ」というチームをつくり、自校の魅力を発信する活動を積極的に行い、広報活動に大きな役割を果たしている。総合学習でも広報誌を作り広報活動の充実に寄与してる事は評価できる。